

安田女子大学大学院 “3つのポリシー”

文学研究科▼ 家政学研究科▼ 薬学研究科▼ 看護学研究科▼

安田女子大学大学院（以下「本学大学院」という。）は、建学の精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展と人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。

本学大学院では、その教育的側面をこれまで以上に充実するために、3つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を以下のとおり定めている。

1 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学大学院は、高度にして専門的な学術の理論及び応用を研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を備え、文化の進展に寄与するために、各研究科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に沿って、所定の単位を修得し、修士又は博士論文の審査及び試験に合格して課程を修めた者に対し、学位を授与する。

すなわち、修士課程又は博士前期課程にあつては、広く深い知識を備え、専門分野における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身に付けているかどうか、博士課程又は博士後期課程にあつては、研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身に付けているかどうか、課程修了の基準である。

<知識・理解>

- ① 創造性豊かな優れた研究を行う上で、専門分野における十分な知識を身に付けている。（専門分野に関する知識・理解）
- ② 研究を行う上で、高い倫理観と強固な責任感を身に付けている。（研究倫理への理解）
- ③ 知識基盤社会を支える高度で知的な素養を身に付けている。（高度な知識・理解）

<技能>

- ④ 高度な専門的知識・能力を持つ研究者・高度専門職業人としての技能が備わっている。（研究者・高度専門職業人としての技能）
- ⑤ 社会において指導的あるいは中核的人材として活躍し、新たな社会の創造・成長を牽引していくリーダーシップ能力が備わっている。（リーダーシップ能力）
- ⑥ 開かれた環境の下で新しい研究を生み出し、遂行する能力が備わっている。（グローバル人材）
- ⑦ 学術論文又は特定の課題についての立派な研究成果（修士課程・博士前期課程）を上げている。（学術論文等の完成）

<思考・判断・表現>

- ⑧ 多面的・総合的視点から物事の本質を捉えて思考することができる。（専門性と総合性）
- ⑨ グローバル化する社会の種々の事象を柔軟に思考・判断することができる。（グローバル化への対応）
- ⑩ 倫理観と公平・公正の精神を持って、事象を判断することができる。（倫理観、公平・公正な判断）
- ⑪ 得られた研究成果について、適切な表現手段を用いて社会に発信することができる。（成果の発信）

<関心・意欲・態度>

- ⑫ 生涯にわたり、未知の問題解決に強い関心を持ち、研究・開発を継続していく意欲を有している。（継続的探求への意欲）
- ⑬ 専門性（専攻間）の壁を越えた、学際的な研究・開発を進める意欲を有している。（専門性と総合性への意欲）
- ⑭ グローバル化する社会で活躍しようとする意欲と態度を有している。（グローバル人材としての意欲と態度）

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学大学院は、その教育上の目的を達成するために、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関連する分野の基礎的、専門的知識及び能力を涵養するよう必要な授業科目を開設するとともに、学位論文の作成等に対する指導の計画を策定し、次に掲げる方針の下に体系的な教育課程を編成する。

なお、この教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請などを踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、充実に努める。

＜知識・理解＞

- ① 幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又はこれに加えて高度の専門的な職業を担うための卓抜した能力を養う。（修士課程及び博士前期課程）研究者として自立して研究活動を行うに足る又は高度の専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る、高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養う。（博士課程及び博士後期課程）

＜技能＞

- ② 研究分野における課題設定・解決能力を培う。（課題解決型授業）
- ③ 高度な専門的知識・能力に加え、幅広い視野、専門応用能力、コミュニケーション能力を培う。（研究者・高度専門職業人の育成）
- ④ 広く社会との連携による協働研究・開発を推進する能力を培う。（研究開発能力）
- ⑤ データ・資料を収集、実験、分析し、学術論文等にまとめ上げる能力を培う。（学術論文等作成能力）

＜思考・判断・表現＞

- ⑥ 専門性と総合性をあわせてとらえる思考力を養う。（専門性と総合性）
- ⑦ グローバル化する社会を認識し、それへの思考力・判断力を養う。（グローバル化）
- ⑧ 研究者・高度専門職業人として倫理的で公平・公正な判断力を培う。（倫理観、公平・公正な判断）
- ⑨ 研究者・高度専門職業人として社会に対し、研究成果を発信するための能力を培う。（成果の発信）

＜関心・意欲・態度＞

- ⑩ 研究者・高度専門職業人としての素養を培い、生涯にわたって探求し、社会に貢献できる人材を育成する。（継続的探求）
- ⑪ 専門性（専攻間）の壁を越えた、学際的な研究を進める総合性を培う。（専門性と総合性）
- ⑫ グローバル化する社会に対応して活躍しようとする意欲と態度を培う。（グローバル人材）

教育内容、教育方法及び評価については、以下のように定める。

修士課程及び博士前期課程

（1）教育内容

- ① 高度専門職業人としての知識と技術・技能を修得するために、講義のほかに実習や演習を実施する。
- ② 課題解決能力を修得し、専門領域の課題の解決に必要な広い視野と学際的識見を培うために、分野横断的な授業科目を開設する。
- ③ 研究遂行能力を修得するために研究における問題点を自ら見出し分析するとともに、研究成果を適切に説明し、論文としてまとめることができるために、専門的な授業科目を開設する。
- ④ 高い倫理観と国際的視野を修得するために他者を尊重し、理解することのできる高い倫理観と国際性を培うために、専門的な授業科目を開設する。

（2）教育方法

- ① 高度専門職業人としての知識と技術・技能を修得するために、講義の他に実習や演習を実施する。
- ② 課題解決能力を修得するために、課題発見能力を修得できる能動的学修（アクティブ・ラーニング）を実施する。
- ③ 研究遂行能力を修得するために指導教員が、研究指導や論文執筆・発表指導を個別に行う。
- ④ 高い倫理観と国際的視野、学際的識見を培うために外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義や講演会を実施する。

（3）成果の測定

以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力が、修士の学位にふさわしいレベルに達しているかを評価する。

- ① 履修科目の総合判定は、あらかじめ決められた基準に沿って、各学年終了時に評価する。
- ② 学位論文発表会及び修士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力が身に付いているかを評価する。

博士後期課程

(1) 教育内容

- ① 基盤となる理論や科学的根拠への理解を深め、高度専門職業人としての知識と技術・技能を修得するとともに、実践力と指導力を高めるために、各専門分野に多様な授業科目を開設する。
- ② 課題解決能力を修得するために、各専門分野に講義形式及びセミナー形式の授業科目を開設する。
- ③ 高い研究遂行能力を修得するために問題点を自ら見出し、データ収集、実験、分析するとともに、研究成果を適切に説明し、博士論文としてまとめることができるために、専門的な授業科目を開設する。
- ④ 高い倫理観と国際的視野、学際的識見を培うために外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。

(2) 教育方法

- ① 高度専門職業人としての知識と技術・技能を修得するために、講義の他に実習、演習、e-learning を実施する。
- ② 課題解決能力を修得するために、課題発見能力を修得できる能動的学修(アクティブ・ラーニング)を実施する。
- ③ 高い研究遂行能力を修得するために指導教員が、個別に研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。
- ④ 高い倫理観と国際的視野を修得するために、外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。

(3) 成果の測定

以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力が、博士の学位にふさわしい高いレベルに達しているかを評価する。

- ① 履修科目の総合判定は、あらかじめ決められた基準に沿って、各学年の終了時に評価する。
- ② 学位論文発表会及び博士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力が身に付いているかを評価する。

3 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

本学大学院は、次の3つの資質に基づく各研究科の入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)に合う多様な人材を広く求める。

- ① 高度にして専門的な研究に当たり、十分な知識・技能を有する。
- ② 高度にして専門的な研究に当たり、高い研究意欲を有する。
- ③ 高度にして専門的かつグローバルな視野での研究能力を有する。

一般選抜及び社会人特別選抜を行う。

英語問題、専門科目及び面接から、専攻領域及び欧米の学術論文の読解能力を備えているか、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、各専攻・課程の標準修業年限(2年又は3年間若しくは4年間)内に学位論文(修士、博士)が作成、修了できる計画であるか、研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

安田女子大学大学院文学研究科 “3つのポリシー”

I 研究科・専攻の目的

安田女子大学大学院文学研究科（以下「本研究科」という。）は、文学、教育学、心理学の各領域における確かな研究能力と教育能力を兼ね備えた研究者、並びに高度の専門知識と実践的能力を身につけた幼小中等高等学校の教員や臨床心理士等、及び社会の中核となり得る能力と高度な専門知識を有する職業人の養成を目的とする。

各専攻の目的は、以下の通りである。

博士前期課程

1 日本語学日本文学専攻

日本語学・日本文学（漢文学・日本文化論を含む。）・国語教育学に関し、広い視野に立って精深な学識を授け、学修の専門深化と総合化を図り、専攻分野における研究能力の基礎を養うとともに、研究者、中等学校国語教員等、高度の専門性を有する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

2 英語学英米文学専攻

英語学・英米文学（欧米文化論を含む。）・英語教育学に関し、広い視野に立って精深な学識を授け、学修の専門深化と総合化を図り、専攻分野における研究能力の基礎と優れた英語の運用能力を養うとともに、研究者、中等学校英語教員等、高度の専門性を有する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

3 教育学専攻

教育学・心理学・臨床心理学に関し、学修の専門深化と総合化を図り、専門的な学識と研究能力の基礎を養うとともに、研究者、幼稚園教員、初等中等学校教員、学校心理士、公認心理師、臨床心理士等、高度の専門的資質・能力を身に付けた職業人を育成することを目的とする。

博士後期課程

4 日本語学日本文学専攻

日本語学（国語教育学を含む。）・日本文学（漢文学・日本文化論を含む。）に関し、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、研究の高度化と研究能力の涵養を図るとともに、高度に専門的な業務に従事するのに必要な学識と研究能力を養うことを目的とする。

5 英語学英米文学専攻

英語学（英語教育学を含む。）・英米文学（文化論を含む。）に関し、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、研究の高度化と研究能力の涵養を図るとともに、高度に専門的な業務に従事するのに必要な学識と研究能力を養うことを目的とする。

6 教育学専攻

教育学・心理学・臨床心理学に関し、専門分野における研究の高度化と高度の研究能力の涵養を図り、研究者及び高等教育の人材を育成することを目的とする。

II 文学研究科 “3つのポリシー”

本研究科では、その教育的側面をこれまで以上に充実するために、3つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を以下のとおり定めている。

1 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

博士前期課程

- ① 人文学について広範な学識を有し、専門分野において高度な知識を身に付けている。
- ② 科学的批判精神と洞察力を持って、人文学に関わる諸問題を深く追求することができる。
- ③ 人文学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、的確な表現力・コミュニケーション力を持って研究成果を発表することができる。
- ④ 人文学の専門知識と技能を生かし、総合的な判断力と創造的な研究能力を持って広く社会に貢献することができる。

博士後期課程

- ① 人文学について広範な学識を有し、専門分野において博士の学位を取得するに足る深い学術的知見を獲得している。
- ② 博士課程前期で培った調査力・分析力・考察力を更に発展させ、独創的で自立した研究活動ができる。
- ③ 人文学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、的確な表現力・コミュニケーション力を持って研究成果を発表することができる。
- ④ 人文学の専門知識と技能を生かし、総合的な判断力及び創造的な研究能力を持って広く社会に貢献することができる。

2 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程

- ① 人文学に関わるより高度な専門知識の修得のための講義科目を開設する。
- ② 自ら課題を発見し、自ら課題を解決する力を養うための演習科目を開設する。
- ③ 各専攻の諸分野について専門的に学修を深めるための授業科目を開設する。
- ④ 個別指導により、本学学位規程に規定された基準の修士論文又は特定の課題についての研究の成果を課す。

博士後期課程

- ① 人文学に関わるより高度な専門知識の修得のための講義科目、課題の発見から解決のための方法を学ぶ演習科目、その他専攻の諸分野について専門的に学修を深めるための授業科目を開設する。
- ② 各専門分野の研究の集大成として、研究計画に基づいた指導の下で、本学学位規程に規定された基準の博士論文を課す。

3 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程

- ① 日本語学日本文学専攻（日本文化学、漢文学、書道史学・国語教育学（書写・書道教育学）、英語学英米文学専攻（英語学、英米文学（欧米文化論・異文化理解を含む。）、英語教育学）、教育学専攻（教育学・心理学コース、臨床心理学コース）のいずれかの分野での研究を希望する人
- ② 人文学に関わる高度な専門知識を持って社会に貢献したいという意欲を持った人

博士後期課程

- ① 博士課程前期で培った専門知識と研究方法により、更に高度で独創的な研究の継続を希望する人
- ② 自ら選んだ専門分野の研究を深め、その学術的展開を行って、研究者を志す人

Ⅲ 日本語学日本文学専攻 “3つのポリシー”

日本語学日本文学専攻では、その教育的側面をこれまで以上に充実するために、3つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を以下のとおり定めている。

1 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

博士前期課程

幅広く体系的な知識、情報を処理する技能、国際化社会の中で主体的に活躍できる資質を身に付けていることが求められる。

次の要件を満たした学生に対し、修士の学位を授与する。

- ① 日本語学・日本文学・国語教育学及び関連諸学について広範な学識を有し、専門分野において修士の学位を取得するに足る知識を身に付けている。
- ② 科学的批判精神と洞察力を持って思考、判断し、日本文学・日本語学及び関連諸学に関わる諸問題を探究することができる。
- ③ 日本語学・日本文学・国語教育学及び関連諸学に深い関心を抱き、その研究に強い意欲を持ち、推進することができる。
- ④ 日本語学・日本文学・国語教育学及び関連諸学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、調査研究能力を身に付け、的確な表現力・コミュニケーション力を持って社会に貢献することができる。

博士後期課程

高度な専門知識を身に付け、研究能力及び豊かな学識を身に付けることを目標にしている。各専攻分野における客観性、論理性及び独創性などを備え、優れた見識を持って多様な問題に積極的に取り組む能力を有することが求められる。これらを教育目標とし、修得した者に対し、博士の学位を授与する。

- ① 日本語学・国語教育学、日本文学及び関連諸学について広範な学識を有し、専門分野において博士の学位を取得するに足る深い学術的知見を獲得することができる。
- ② 博士前期課程で培った調査力・分析力・考察力を更に発展させ、独創的で自立した研究活動ができる。
- ③ 博士前期課程で研究したことへの深い関心を維持し、その更なる研究に強い意欲を持ち、推進することができる。
- ④ 日本語学・国語教育学、日本文学及び関連諸学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、的確な表現力・コミュニケーション力を持って学術的な研究成果を発表し、学問の発展に寄与することができる。

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成に当たっては、本大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮する。

（1）教育内容・方法

博士前期課程

博士前期課程は、「日本語学」「日本文学」及び「国語教育学」の3分野並びに「共通科目」で構成されている。

- ① 日本語学・日本文学・国語教育学及び関連諸学に関わるより高度な専門知識の修得、理解のための講義科目を、課題の発見から解決のための方法を判断し、思考を練り上げるための演習科目を開設する。
- ② 研究指導教員は、学生をほぼマンツーマンで指導するとともに、授業科目も少人数で履修できる体制を整える。
- ③ 同課程の第2年次生は、それまでの研究成果を7月頃に開催される「研究経過発表会」において発表する機会を持ち、研究指導教員以外の教員からも助言を受ける。
- ④ 個別指導により、研究計画に基づいた指導の下で、本学学位規程に規定された基準の修士論文を課す。

博士後期課程

博士後期課程は、博士前期課程を基礎として、「日本語学・国語教育学」及び「日本文学」の2分野に統合されている。

- ① 各専門分野の高度なレベルで構成される専門知識の修得、理解のための講義科目を、課題の発見から解決のための方法を判断し、その思考を実践することができる演習科目を開設する。
- ② 専門的知識・技能を身に付け、自発的に見出し解決した課題を発表する能力を実践する専門の授業科目を開設する。
- ③ 各専門分野の研究の集大成として、研究計画に基づいた指導の下で、本学学位規程に規定された基準の博士論文を課す。

(2) 学修成果の評価

- ① 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は演習などでの取り組み状況、学内外での研究報告・発表（口頭、論文）で行い、博士論文を完成する。
- ② 博士論文「特殊研究」では、作成した論文及び口頭発表について複数教員で評価する。
以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。

3 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程

日本語学・日本文学（日本文化学、漢文学、書道史学）・国語教育学（書写・書道教育学）に関わる高度な専門知識を持って社会に貢献したいという意欲を持った人
本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

外国語及び専門科目筆記試験、口述試験、卒業論文・研究計画書の審査から、専攻領域に関する文献の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、基礎的知識と実践力を有しているか、本専攻の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

小論文及び専門科目筆記試験、口述試験、卒業論文・研究計画書の審査から、専攻領域に関する文献の読解能力及び研究計画を実施するための専門知識を有しているか、基礎的知識と実践力を有しているか、本専攻の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

博士後期課程

博士前期課程で修得した専門知識と技能を生かして、社会貢献と学問の発展に貢献し得る人

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

専門科目筆記試験（専門分野に関連する外国語を含む。）、口述試験及び修士学位論文等・研究計画書の審査から、専攻領域に関する文献・学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の3年間で博士論文が修了できる計画であるか、本専攻博士後期課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

既発表の研究業績、口述試験及び研究計画書の審査から、専攻領域に関する文献・学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の3年間で博士論文が修了できる計画であるか、本専攻博士後期課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

IV 英語学英米文学専攻 “3つのポリシー”

英語学英米文学専攻では、その教育的側面をこれまで以上に充実するために、3つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を以下のとおり定めている。

1 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

博士前期課程

幅広く体系的な知識、情報を処理する技能、国際化社会の中で主体的に活躍できる資質を身に付けていることが求められる。これらの要件を満たした学生に対し、修士の学位を授与する。

- ① 語学・英米文学・英語教育学及び関連諸学について広範な学識を有し、専門分野において修士の学位を取得するに足る知識を身に付けている。
- ② 論理的な思考力を持ち、英米を中心とした英語圏の言語、文学、歴史及び文化に関わる諸問題を深く追究できる。
- ③ 英米を中心とした英語圏の言語、文学、歴史及び文化の諸問題について高い関心を有している。
- ④ 高度な英語能力と深い専門知識を生かして、教育現場等で、広く社会に貢献しようとする積極的姿勢を有している。
- ⑤ 英語で専門的な資料を読み解き、情報収集を行う能力を持っている。
- ⑥ 英語論文によって個人の考えを表現し、広く発信する能力を身に付け、自分の考えを他者に的確に伝えるための論理的思考力と的確な表現力・コミュニケーション力を持って社会に貢献できる。

博士後期課程

高度な専門知識を身に付け、研究能力及び豊かな学識を身に付けることを目標にしている。

各専攻分野における客観性、論理性及び独創性を備え、優れた見識を持って多様な問題に積極的に取り組む能力を有することが求められる。これらを教育目標とし、修得した者に対し、博士の学位を授与する。

- ① 英語学・英米文学・英語教育学（言語・英語研究、イギリス文学・イギリス文化研究、アメリカ文学・アメリカ文化研究、英語教育研究）及び関連分野における高度で専門的な知識を身に付けている。
- ② イギリス文学、イギリス文化、アメリカ文学、アメリカ文化、言語・英語研究の各専門分野において、自らの思考力・分析力・考察力によって独創的で自立した研究活動ができる。
- ③ 英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語、文化の諸問題について、自ら問題提起を行い、それを追究する意欲を持っている。
- ④ 高度な英語能力と深い専門知識を、専門の研究分野の発展に還元しようとする積極的姿勢を有している。
- ⑤ 研究によって到達した独自の考えを、学位論文にまとめる論理的思考力、表現力を有している。

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成に当たっては、本大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮する。

博士前期課程

(1) 教育内容・方法

博士前期課程では、英語学・英米文学・英語教育学及び関連諸学に関わるより高度な専門知識の修得、理解のための教育科目を編成する。

- ① 個別指導により、研究計画に基づいた指導の下で、本学学位規程に規定された基準の学位論文（修士）、又は特定の課題についての研究の成果を課す。
- ② 英米を中心とした英語圏の言語、文学、歴史及び文化に関わる専門知識を身に付けるための講義科目を開設する。
- ③ 専門分野の論文を読み解き、自ら課題を発見する能力を養うための演習科目を開設する。
- ④ 英語教育の従事者として活躍できる人材を養成するための関連科目を開設する。
- ⑤ 研究指導教員は学生をほぼマンツーマンで指導するとともに、授業科目も少人数で履修できる体制を整え

る。

- ⑥ 専門誌への論文の投稿や、各種関連学会での積極的な研究成果の発表を促し、自分の研究内容を口頭で明快に伝える訓練をする。
- ⑦ 第2年次生は、それまでの研究成果を7月頃に開催される「研究経過発表会」において発表する機会を持ち、研究指導教員以外の教員からも助言を受ける。

(2) 学修成果の評価

- ① 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は演習などでの取組み状況、学内外での研究報告・発表（口頭、論文）で行い、修士論文又は特定の課題についての研究の成果を完成する。
 - ② 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表について複数教員で評価する。
- 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。

博士後期課程

(1) 教育内容・方法

- ① 個別指導により、各専門分野の研究の集大成として、研究計画に基づいた指導の下で、本学学位規程に規定された基準の学位論文（博士）を課す。
- ② 各専門分野の高度なレベルで構成される専門知識の修得、理解のための講義科目を開設する。
- ③ 専門分野の高度な英語論文を読み解き、自ら課題を発見するための能力を養うための演習科目を開設する。
- ④ 公的学会等での口頭発表、また公的学会の専門誌や本学の大学院紀要等への論文投稿など、積極的な研究成果の発表を促す。
- ⑤ 公的学会等の研究発表会において、自分の研究成果を発表する訓練をする。
- ⑥ すべての科目においてアクティブ・ラーニングを旨とする。
- ⑦ 学位論文を執筆するための個別指導を行う「特殊研究」を開設する。

(2) 学修成果の評価

以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力が、博士の学位にふさわしい高いレベルに達しているかを評価する。

- ① 履修科目の総合判定は、あらかじめ決められた基準に沿って、各学年終了時に評価する。
- ② 学位論文発表会、博士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付いているかを評価する。

以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。

3 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程

博士前期課程では、専攻における学修の基礎学力を備え、研究課題を持ち、研究意欲に満ちた学生（性別は問わない。）を、学内はもとより学外からも広く受け入れるために、以下のことを入学者受入れの目標としている。

- ① 言語・英語研究、イギリス文学・イギリス文化研究、アメリカ文学・アメリカ文化研究、英語教育研究の少なくとも1つの分野において、一定の専門的知識を有し、複眼的な視座と客観的な判断力を持つ人
- ② 英米を中心とした英語圏の言語、文学、歴史、及び文化についての高度な専門知識を身に付けることによって、社会の発展に貢献したいと希望する人

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

外国語及び専門科目筆記試験、口述試験、卒業論文・研究計画書から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門基礎知識を有しているか、基礎的知識と実践力を有しているか、博士前期課程の2年間で修士論文又は特定の課題についての研究の成果が作成できるか、本専攻の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

英語及び専門科目筆記試験、口述試験、卒業論文・研究計画書から、英語学英米文学論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、基礎的知識と実践力を有しているか、本専攻の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

博士後期課程

博士後期課程では、専攻における学修の基礎学力を備え、研究課題を持ち、研究意欲に満ちた学生（性別は問わない。）を、学内はもとより学外からも広く受け入れるために、以下のことを入学者受入れの目標としている。

- ① 専門分野の英語による高度な学術書や論文を的確に読み解くために十分な英語読解能力を有し、研究を行っていくために必要な専門的知識を有し、深い洞察力と思考力、判断力を身に付けている人
- ② 英米を中心とした英語圏の文学、歴史、言語及び文化についての専門知識を深めるとともに、新たな問題提起や発見を成し遂げることによって、当該の研究分野の発展に寄与することを希望する人

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

専門科目筆記試験（専門分野に関連する外国語を含む。）、口述試験及び修士学位論文等・研究計画書から、欧米の学術論文を読解する能力を備えているか、研究計画を実施するための専門基礎知識を有しているか、博士後期課程の3年間で博士論文が作成できるか、本専攻の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

既発表の研究業績、口述試験及び研究計画書の審査から、専攻領域に関する文献、欧米の学術論文を読解する能力を備えているか、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の3年間で博士論文が修了できる計画であるか、本専攻博士後期課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

V 教育学専攻 “3つのポリシー”

教育学専攻では、その教育的側面をこれまで以上に充実するために、3つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を以下のとおり定めている。

1 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育学、心理学、教育実践又は臨床心理学、心理臨床実践に関する深い学問的知識と高度な研究能力を身に付け、それを学校や地域の教育又は臨床心理の課題に対応できる高い専門性と実践的視野を兼ね備えた資質と能力を備えている者に対し、学位を授与する。

博士前期課程

教育学・心理学コース及び臨床心理学コース（両コースは、博士前期課程のみ）のいずれかのコースにおいて、所定の単位を修得し、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格して、以下の知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な研究態度を身に付けた者に対し、修士の学位を授与する。

- ① 教育学や心理学の理解に関する高度な知識・技能を修得し、それらを地域社会・家庭・学校・企業や公共機関等に還元して総合的に活用することができる。
- ② グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人との円滑なコミュニケーション能力及び豊かな表現能力を発揮し、実際的な問題解決を通して社会に貢献することができる。
- ③ 教育学の学びに関心を持ち、未解決の課題に主体的に取り組む態度と、グローバル社会に対応して活躍しようとする意欲を培うことができる。

博士後期課程

博士後期課程では、大学において教育を担う研究者及び教育行政において教育政策を担う高度な専門家を養成することを目指して、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けて博士論文の審査に合格し、次の知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的、創造的な研究態度を身に付けた者に対し、博士の学位を授与する。

- ① 研究者として活動するために必要とされる教育学、認知・発達・社会・応用・臨床の心理学に関する卓越した知識・技能を修得し、それらを地域社会・家庭・学校・企業や公共機関等に還元して総合的に活用することができる。
- ② グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人との円滑なコミュニケーション能力と効率的で的確な表現能力を発揮し、実際的な問題解決を通して社会に貢献することができる。
- ③ 自らの学びに責任を持ち、高い職業的倫理観の下、未解決の課題に主体的かつ創造的に取り組む態度と、グローバル社会に対応して先導的に活躍しようとする意欲を持続することができる。

2 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程

教育学・心理学コースは、教育実践及び教育支援に関する高度に専門的な知識を獲得し、理論的探求力を涵養するとともに、実践的応用の能力や技能を身に付けることのできるカリキュラムを編成する。

臨床心理学コースは、公認心理師、臨床心理士養成課程の指定カリキュラムに準拠し、心理教育相談室での実習を軸とした幅広い心理臨床実践の能力を身に付けられるカリキュラムを編成する。

（1）教育内容・方法

（教育学・心理学コース）

本コースでは、教育学・心理学を領域とする、児童学の学びをより深めていくため、3つの研究科目群（教育学・心理学・臨床心理学）からカリキュラムを編成する。

- ① 教育現場で主導的な役割を担うための教職に関する高度な知識の修得、専門的な教職能力の向上を目的とする授業科目を開設する。

- ② 家庭、学校及び社会における教育事象について理解し、専門的な洞察を深めるために、理論と実践のバランスの取れたカリキュラムを編成する。
- ③ 専門性を有する研究者・実践者を育成するため、専門的科目及び学際的科目を開設する。

(臨床心理学コース)

公認心理師や臨床心理士試験に合格し心理臨床家として活躍できる有能な人材を養成するために、以下の方針でカリキュラムを編成している。

- ① 領域の専門的知識及び関連する心理学領域の専門的知識の獲得（公認心理師を含む。）のための必修科目を、また、展開科目に社会心理学等関連する心理学領域の授業科目をそれぞれ開設する。（本コースのカリキュラムは、臨床心理士養成のための第1種指定大学院カリキュラムに準拠している。）
- ② 実践を多領域において遂行できる基礎的力の獲得のための体系的な実習科目（臨床心理基礎実習、臨床心理実習（学内、学外））を開設する。
- ③ 高度な知識の修得と複雑かつ多様な課題に対応できる探求能力、課題解決能力の修得を目的とする授業科目を開設する。

(2) 教育方法

- ① 学生が自ら設定した研究課題に対して適切な指導を行い、学生の主体的な研究態度を養うことによって、修士論文の作成を支援する。
- ② 講義・演習・特別研究及び関連する授業科目を通して専門性を高め、最先端の研究動向を理解するとともに、関連諸科学の学修を通して、豊かな専門性を養成する。
- ③ 臨床心理学コースの学生の実習は、学内の「心理教育相談室」を拠点として実際に事例に触れるとともに、学外の学校、福祉施設、保健医療機関、教育相談機関などにおいて、臨床経験を積む。
- ④ リサーチスキル修得の授業科目等を通して、研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。

(3) 学習成果の評価

- ① 年次末に、研究の進捗状況と今後の方針について、口頭発表（修士論文中間発表会）を行う。
- ② 「修士論文発表会」及び口頭試問（修士論文審査会）を行い、本研究科の評価基準を満たした者を合格とする。

博士後期課程

本専攻では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を修得できるように、以下の点を踏まえて教育課程を編成する。

教育学領域又は臨床心理学領域における自立した研究者として、又は大学、行政機関などで教員や心理臨床家の指導のできる高度専門職業人を養成するために以下の方針でカリキュラムを編成する。

(1) 教育内容・方法

- ① 教育学、心理学及び臨床心理学に関する特殊講義及び特殊研究より構成する。
- ② 臨床心理学研究及び心理臨床実践を倫理的配慮の下で統合的に進めていく能力を養成するための基礎研究領域科目及び実践研究領域科目を開設する。
- ③ 教育学分野、認知・発達・社会・応用・臨床の心理学分野すべてに担当教員ごとの演習科目を開設することによって、卓越した知識・技能を効率的に修得させることを目指す。

(2) 教育方法

- ① 未開発の領域及び課題発見や解決のための研究、論文の論理構成などを深く考究する。
- ② 研究は、単純な理論や実践に埋没することなく、複合的な視野で教育学・心理学に関わる研究を深めることを研究指導の目標とする。
- ③ 研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。

(3) 学習成果の評価

- ① 研究の進捗状況を確認し、その質を確保するために、本課程在学中に2回、博士論文テーマについて「博士論文中間発表会」を行う。
- ② 博士論文発表会及び口頭試問（博士論文審査会）を行い、本研究科の評価基準を満たした学生を合格とする。

3 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程

本専攻では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づく教育を受けることができることを条件に、教育学及び心理学を学んだ者を中心に、他領域からの入学者、社会人及び外国人留学生等を受け入れる。以下に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な学習・研究態度を備えた者を広く受け入れる。

- ① 学士課程で専攻した専門分野を中心とする専門的な知識・技能を修得している者
- ② 学士課程における学習を通じて、グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションを取りつつ、社会に貢献できる者
- ③ 特定の学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている者

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

英語、専門科目及び面接から、専攻領域に関する文献の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、基礎的知識と実践力を有しているか、研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

英語、一般選抜の専門問題に当たる小論文及び面接から、専攻領域に関する文献の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、基礎的知識と実践力を有しているか、研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

博士後期課程

教育学専攻では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づく教育を受けることのできる者として、博士前期課程修了者及び専門職学位課程の心理臨床学専攻修了者をはじめ、関連領域の大学院修士課程（博士前期課程）修了者、様々な社会人を対象として、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた入学者を広く受け入れる。

- ① 学士課程及び博士前期課程で専攻した専門分野を中心とする専門的な知識・技能を修得している者
- ② 学士課程及び博士前期課程における学習を通じて、グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションを取りつつ、社会に貢献できる者
- ③ 特定の学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている者

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

英語問題、専門科目及び面接から、選考領域に関する文献、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の3年間で博士論文を完成することができる計画であるか、教育学専攻博士後期課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

英語、一般選抜の専門問題に当たる小論文及び面接から、専攻領域に関する文献、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の3年間で博士論文が修了できる計画であるか、本専攻博士後期課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

安田女子大学大学院家政学研究科 “3つのポリシー”

I 研究科・専攻の目的

安田女子大学大学院家政学研究科（以下「本研究科」という。）は、人のあるべき姿、社会のあるべき姿を家政学の知見に学び、健康生活を築く上での諸問題を科学的根拠に基づいて研究し、そのための解決を図ることのできる人材を養成することを目的とする。

1 健康生活学専攻

健康生活学専攻は、家政学分野の中でも特に健康関連領域について、人間における内部環境と生活環境の分野から学識を深め、ホリスティックに教育・研究を行うことによって、「健康な生活」について、時代と社会の要請に応えることのできる人材を養成することを目的とする。

II 家政学研究科健康生活学専攻 “3つのポリシー”

本研究科では、その教育的側面をこれまで以上に充実するために、3つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を以下のとおり定めている。

1 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と技能を身に付け、主体性を持って文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を教育目標とする。

この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、必要な修了要件を満たした者に対し、学位（修士（家政学））を授与する。

- ① 食住などの人間生活又は食べ物と健康との関係について幅広い知識を修得し、人間生活の向上や改善、食生活を通じた健康の増進や疾病の予防に寄与できる高度な専門性を身に付けている。
- ② 衣環境・食環境・住環境・建築学に関わる自然科学・人文科学・社会科学分野の高い専門性、深い学識及び技術を有している。
- ③ 家政学の社会的役割を意識し、生活に関わる今日的な課題を見出し、それを解決するために、専門知識と技能を生かし、総合的な判断力及び創造的な研究能力を持って広く社会に貢献することができる。
- ④ 研究者と市民という視点に立って、生活を取り巻く現代社会の諸問及び政策課題を追求できる。
- ⑤ 生活課題の構造を広い視野で多面的・総合的に捉え、経験と理論を発展的に結合させて自らの見解を形成できる。
- ⑥ 専門的知識を統合して、生活者の視点及び国際的な視野とグローバルな視点から、衣環境・食環境・住環境に関わる諸問題を多角的に捉えることができる。
- ⑦ 時代の変動に伴う新しい生活課題を主体的に設定する能力を身に付け、必要な専門知識を高めていく努力をし、問題を解決しようとする姿勢を持つ。
- ⑧ 研究テーマの社会的意義を自覚し、その成果を地域や社会に還元しようとする態度を持つ。
- ⑨ 生活環境が人間生活のQOL向上に及ぼす役割を十分に理解し、研究成果を社会に還元しようとする意欲と実現できる能力を持つ。
- ⑩ 衣・食・住に関わる職能を理解し、それに対する倫理観を持っている。
- ⑪ 地域社会で主体的な貢献や活動を行うために、自律性、協調性、対話力及び倫理感などの人間力を身に付ける。
- ⑫ 衣・食・住環境を様々な視点から多角的に理解し統合して、それを生活空間の創造的な意匠計画に反映させる技能と表現力を有している。
- ⑬ 家庭科教員を目指す場合には、教材の研究及び開発を行う力、児童や生徒の教育を実践的に展開し、その分析・評価・改善ができる力を身に付ける。

- ⑭ 研究課題・成果について、日本語や英語により論理的に記述でき、討議を行うこと、また、的確な表現力及びコミュニケーション力を持って、研究成果を発表することができる。

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

家政学研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、健康な人間生活を形成するために、カリキュラムでは、人体内部環境の実態と改善を研究する内容、人を取り巻く衣・住環境など生活環境の実態と健康への影響を研究する内容の2分野を設定して、以下のカリキュラムを体系的に編成する。

（1）教育課程の編成

- ① 健康生活学専攻は、衣・食・住・環境・デザイン領域の履修科目で構成し、共通する授業内容を本研究科の基本科目として開設する。
- ② 内部環境分野は、食と健康の関係を学修する管理栄養学の高度な知識及び実践力を養成する教育・研究科目で編成している。
- ③ 生活環境分野は、衣領域、住領域の家政学の各分野でより高度な専門知識と技術を修得するための教育・研究科目で編成している。
- ④ 総合的・実践的な家政学の研究方法を学ぶために、実習・実践を行う授業科目を開設する。

（2）教育内容・方法

- ① 健康生活学専攻は、内部環境学分野と生活環境分野の2分野を置き、基本科目として健康生活学特論、疾患リスク管理学特論、統計的調査方法論を、両分野に展開科目をそれぞれ開講する。
- ② 内部環境分野は、食品機能学特論、調理科学特論、医療栄養学特論、健康栄養学特論、健康教育学特論等を開講して、食と健康について高度な知識、技術を修得する。
- ③ 生活環境分野は、生活環境特論、衣環境特論、住空間設計特論、生活情報学特論、生活教育学特論等を開講する。
- ④ 各特論に加えて、生活教育学演習及び健康教育学演習等を開講し、実証に基づく、家庭科教員（高等学校・中学校）、栄養教諭（専修免許）の養成、また高度な専門知識を修めた管理栄養士を養成する。
- ⑤ 入学時点で学生の指導教員を決め、講義・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。

（3）評価の方法

- ① 履修科目の学修評価は主に試験・レポートで行い、研究能力の修得評価は研究実施状況、学内外での研究報告・発表（口頭、論文）で行い、修士論文又は特定の課題についての研究の成果を完成する。
 - ② 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表について複数教員で評価する。
- 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。

3 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

- ① 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を有し、家政学についての高度な専門知識を持って、生活に関わる問題の解決と生活の向上に関心を持ち、社会に貢献したいという意欲を持った人
- ② 内部環境や生活環境に関わる問題を論理的に捉え、その課題解決のための研究・プロジェクトを実践するためのコミュニケーション能力、リーダーシップ能力等の社会・人間関係スキルの基礎を有し、自分の考えを、文章や言葉で他者にわかりやすく、かつ的確に伝えることができる人

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

英語問題、専門科目及び面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、修士課程の2年間で修士論文又は特定の課題についての研究の成果が修了できる計画であるか、課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

英語、一般選抜の専門問題に当たる小論文及び面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、修士課程の2年間で修士論文又は特定の課題についての研究の成果が修了できる計画であるか、本専攻の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

安田女子大学大学院薬学研究科 “3つのポリシー”

I 研究科・専攻の目的

安田女子大学大学院薬学研究科（以下「本研究科」という。）は、医療に関する高度な専門知識・技能及び研究能力を有する人材の養成を図り、もって臨床・医療薬学の教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

1 薬学専攻

薬学専攻は、医療に関して高度な専門知識・技能を有し、あわせて優れた研究能力を有する人材、かつ、薬物治療を通して高度医療に貢献できる薬剤師を養成することを目的とする。

II 薬学研究科薬学専攻 “3つのポリシー”

本研究科では、その教育的側面をこれまで以上に充実するために、3つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を以下のとおり定めている。

1 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医学や生命科学の急激な発展とそれに伴う医療技術の進歩を担い、薬物治療を通して高度医療に貢献できる薬剤師を育成するとともに、医療に関して高度な専門知識・技能と優れた研究能力を併せ持つ人材を養成する。

4年間を通して特定の研究指導教員及び研究指導補助教員の指導の下に課題研究を実施し、博士論文を作成し、論文審査及び公開審査に合格することにより、博士（薬学）の学位が授与される。

- ① 自ら諸問題を見出し、科学的根拠に基づいた対応ができ、地域における医療の中核を担うことができる職業人としての高度な専門知識と倫理観を持っている。
- ② チーム医療の中で最適な薬物療法を提案し、優れた観察力を持って有効性・安全性を解析できる。
- ③ 柔軟で知的好奇心に満ちた思考と強い熱意を持って、社会のニーズに合った創薬や育薬を考えることができる。
- ④ 薬学専攻において修得した極めて高度な専門知識や研究能力を基に、柔軟な思考と深い洞察力に基づいて、自ら課題を発見・設定し、独創的な発想に基づいてこれを解決する能力。

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科では、高度な知識と技能を修得し、独立した研究者として自立的に研究立案し遂行できるようになるために、本専攻は分子生命制御学分野と病態解析治療学分野の2分野より構成する。

以下の方針でカリキュラムを編成し、次のように実施する。

（1）教育内容

- ① 基礎薬学、医療・応用薬学及び臨床医学のカリキュラムを統合的に組み入れ、基礎及び臨床にわたる薬学を体系的に学修し、先端科学及び医療の進歩に対応できる能力を培う授業科目を開設する。
- ② 臨床の現場で化学的視点を持って最新の薬物療法が実施できる応用能力が身に付く授業科目を開設する。
- ③ 臨床現場の薬剤師に求められる高度な専門性と自立した研究能力を磨くための授業科目を開設する。
- ④ 情報発信能力及び豊かな人間性と倫理観を身に付けさせる。
- ⑤ 課題研究は4年間を通して、臨床薬学、医療薬学における臨床的課題を研究テーマとして博士論文を作成する。

（2）教育方法

- ① 演習・実務研修・臨床研究関連科目では、学内におけるセミナーと総説講演、学外での学会発表を通して発表能力を養うほか、臨床薬物療法における問題解決能力及び臨床研究遂行能力を醸成する。
- ② 研究遂行能力を修得するために、研究指導教員が研究指導計画及び学生の作成する履修計画に基づき、き

め細やかに研究指導や論文発表の指導を行う。

- ③ 論文発表に必要な能力を修得するために研究報告会を実施する。研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を高める。

(3) 評価の方法

プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力が、博士の学位にふさわしいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを評価する。

- ① 履修科目の総合判定は、あらかじめ決められた基準に沿って、各学年終了時に評価する。
- ② 専攻する専門分野における研究課題発見能力を評価するため、集団討論、口頭試問への回答、筆記試験及びレポートなど複数の方法で、課題発見能力の判定を行う。
- ③ 博士論文発表会及び博士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力が身に付いているかを判定する。

3 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている（性別は問わない。）。
具体的には、以下のような資質を求めている。

- ① 薬学における研究を推進する基礎学力、医療薬学、臨床薬学領域を中心とした薬学の体系的・先端的知識及び技能を備え、それらを柔軟に活用する能力を身に付けている人
- ② 研究者としての倫理観、薬学の研究課題を探究する明確な目的意識を持つ人
- ③ 包括的な視点から薬学の質の向上と薬学の体系化、薬学の発展に寄与したいという意欲と明確な目的意識を有する人
- ④ 高い倫理観を持って、自立して研究課題を設定、研究計画を立案・遂行し、科学的根拠に基づく、柔軟かつ的確な解決能力を有している人
- ⑤ 幅広い学際的視点を修得するために他分野の領域の学生とも積極的にディスカッションし、相互理解を深めながら学ぶ能力を有する人

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

英語問題、専門科目及び面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士課程の4年間で博士論文が修了できる計画であるか、本専攻博士課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

英語、一般選抜の専門問題に当たる小論文及び面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士課程の4年間で博士論文が修了できる計画であるか、本専攻博士課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

安田女子大学大学院看護学研究科 “3つのポリシー”

I 研究科・専攻の目的

安田女子大学大学院看護学研究科（以下「本研究科」という。）は、人間の尊厳を最も重要なものに据え、人間の健康を保持、推進するために、専門的知識と技術、及び科学的根拠に基づいて、看護学研究成果の獲得とその実践を可能にする看護実践者、研究者及び教育者の養成を目的とする。

専攻の目的は、以下の通りである。

博士前期課程

1 看護学専攻

疾病構造と共に変容する対象者のニーズに効果的かつ効率的に応えるために、高度の理論的知識基盤と優れた分析力を有し、臨床におけるリーダーシップ、教育、研究を通じて、既存の看護実践の在り方を改革・発展させると共に、ヒューマンケアリングの精神に則り相手に寄り添うことのできる柔しさを実現できる専門職業人を養成することを目的とする。

博士後期課程

2 看護学専攻

人々の well-being の向上のために、看護学を基盤としながら、諸学（医学・疫学等）の知見や研究方法を取り入れることで看護学の創造性を引き出し、包括的な視点から看護学の発展推進に貢献できる人材を養成することを目的とする。

II 看護学研究科看護学専攻 “3つのポリシー”

本研究科では、その教育的側面をこれまで以上に充実するために、3つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を以下のとおり定めている。

1 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

博士前期課程

博士前期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められた学生に対し、修士（看護学）を授与する。

- ① ヒューマンケアリングの精神に則り、人間の尊厳を守り、相手を理解し、そして愛情や優しさ、誠実性、思いやりを持って人に寄り添う柔しさを実践できる高度専門職業人としての知識・技術・態度を身に付けている。
- ② 社会のニーズに対応した看護実践の改革・発展に向けて、高度の理論的知識基盤と優れた分析力に裏打ちされた教育的・管理的リーダーシップを発揮する能力を身に付けている。
- ③ 看護領域における課題について、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる高い倫理観と研究遂行能力を身に付けている。

博士後期課程

博士後期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められた学生に対し、博士（看護学）を授与する。

- ① 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる知識・技術・態度を身に付けている。
- ② 高い倫理観と学際的・国際的な視野を持って、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進する能力を身に付けている。

- ③ 看護学の発展に重要な示唆を与える関連領域の学術基盤を看護に活用しながら問題の本質や原因について多角的に説明し、なおかつ複数の研究・分析手法を活用しながら問題の本質を解明する能力を身に付けている。
- ④ 研究成果を国内外に向けて積極的に発信できる姿勢と能力を身に付けている。

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程

博士前期課程は、学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、2つのコース（療養生活支援コース及び看護管理コース）を設置し、「共通科目」、「専門支持科目」及び「看護学特別研究」に加え、コースごとに設定された「専門科目」を開設して、深い学識及び卓越した能力が培えるように教育課程を編成する。

（1）教育内容

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習などを適切に組み合わせた授業を行う。

これらの授業科目は、体系的に理解できるようカリキュラムマップにより可視化する。

- ① 既存の看護実践の在り方を改革・発展させることができるリーダーシップ力、教育力、及び研究力を養成するために「共通科目」を開設する。
- ② 臨床看護を発展させていくために理論的知識基盤に立脚した批判的分析力、問題解決力及び人に寄り添うことができるヒューマンケアリング力を養成する。そのための授業科目として「専門支持科目」を開設する。
- ③ 療養生活支援コースにおいては、優れた臨床判断・意思決定力、看護介入力及び評価力を醸成するために「専門科目」において、知識の獲得を促進する看護学特論と、知識の実践への応用力獲得を促進する演習科目をそれぞれ開設する。
- ④ 看護管理コースにおいては、質・リスク管理力、人材資源管理力及び経営・システム管理力の醸成を図るために「専門科目」において、知識の獲得を促進する看護学特論と、知識の実践への応用力獲得を促進する演習科目をそれぞれ開設する。
- ⑤ 特定の領域において、看護実践・看護管理の改革・発展に寄与するためのエビデンスの創出ができる研究力の醸成を図るために「研究科目」を開設する。

（2）教育方法

- ① 授業には、講義形式、グループワーク・ディスカッションなどによる課題演習及び主体的な学習活動を促進する課題研究等、学生の知識・技術・態度の習得を促す様々な教育方法を活用し、小人数制できめ細やかな学習指導を実施する。
- ② 研究計画及び学生の作成する履修計画に基づき、研究実施、論文執筆及び論文発表についてのきめ細やかな指導を実施する。
- ③ 他者からのフィードバックを受け自己の研究を洗練するとともに、論文発表に必要な能力の修得を促進するために、研究報告会を実施する。そして研究報告会を通して、研究遂行能力やプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を高める。

（3）評価の方法

各専門領域で必要とされる知識・技術・態度及び課題解決のための研究遂行能力が、修士の学位に相応するレベルに達しているかを評価する。

- ① 履修科目の総合判定は、あらかじめ決められた基準に沿って、各授業科目修了時に評価する。
- ② 集団討論、口頭試問への回答、筆記試験、レポートなど複数の方法を用いて、専攻する専門分野で必要とされる知識・技術・態度の獲得状況を評価する。
- ③ 修士論文発表会及び修士論文審査において、課題解決のための研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力が身に付いているかを評価する。

博士後期課程

博士後期課程では、学生が博士前期課程における学修を基礎にして、更なる視野の拡大を図りつつ、自らの研究課題の追究を通して専門研究を深化させ、自立的な研究態度と研究能力を身に付けることができるように教育課程を編成する。

同課程は、専門科目（4単位：必修）と研究科目（10単位：必修）から構成される。

（1）教育内容

授業内容に応じて、講義、演習及び特殊研究を設定する。

同課程では、博士前期課程と同様に、「高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養う」ために、「特講」と「演習」を専門科目として開設する。そして専門性の深化を促進するために、「看護学特殊研究」を研究科目として開設する。

- ① 専門領域で必要とされる知識・技術・態度の修得を通して、包括的問題発見力、多角的問題説明力、高度な問題解決力、高い倫理観と探究心に裏打ちされた研究力、及び研究成果を国内外に向けて発信できる積極的発信力を育成するために「専門科目」を開設する。
- ② 専門教育科目で培った各能力を強化しながら、看護学の発展に寄与する研究を自立して行える能力を養成するために「研究科目」を開設する。

（2）教育方法

- ① 視野の拡大及び専門性の深化を図るために、看護学の発展に重要な示唆を与える関連領域の学術基盤及び研究手法を分野横断的に教授し、看護問題を包括的に解決する方法をきめ細かに指導する。
- ② 研究計画及び学生の作成する履修計画に基づき、研究実施、論文執筆及び論文発表についてのきめ細やかな指導を実施する。
- ③ 論文発表に必要な能力の修得を促進するために研究報告会を実施する。
また、研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、分野横断的に研究遂行能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を高める。

（3）評価の方法

各専門領域で必要とされる知識・技術・態度及び課題解決のための研究遂行能力が、博士の学位に相応するレベルに達しているかを評価する。

- ① 履修科目の総合判定は、あらかじめ決められた基準に沿って、各授業科目修了時に評価する。
- ② 集団討論、口頭試問への回答、筆記試験、レポートなど複数の方法を用いて、専攻する専門分野で必要とされる知識・技術・態度の獲得状況を評価する。
- ③ 博士論文発表会及び博士論文審査において、課題解決のための研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力が身に付いているかを評価する。

3 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程

本研究科では、専攻における学修の基礎学力を備え、研究課題を持ち、研究意欲に満ちた学生（性別は問わない。）を、学内はもとより学外からも広く受け入れるために、以下のことを入学者受入れの目標としている。

- ① 看護職者としての基本的知識・技術及び実践力を有している人
- ② 学術研究を通して効果的な看護実践・看護管理方法を創出又は評価し、看護学の発展に貢献したいという目的意識と意欲がある人

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

英語、専門科目、口述試験及び研究計画書の内容から、欧米の学術論文の読解能力、看護師としての基礎的知識と実践力、研究テーマの適切性、及び研究計画の実行可能性（博士前期課程の2年間で修士論文又は特定の課題についての研究の成果が作成できるか、また研究を実施するための専門基礎知識を有しているか）を総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

小論文、専門科目、口述試験及び研究計画書の内容から、看護師としての基礎的知識と実践力、研究テーマの適切性及び研究計画の実行可能性（研究を実施するための専門基礎知識を有しているか）を総合的に評価する。

博士後期課程

本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている（性別を問わない）。
具体的には、以下のような資質を求めている。

- ① 看護学における研究を推進する基礎学力、基礎的な研究能力と高度な実践力を持つ人
- ② 研究者としての倫理観、看護学の研究課題を探究する明確な目的意識を持つ人
- ③ 包括的な視点から看護実践の質の向上と看護学の体系化、看護学の発展に寄与したいという意欲がある人
- ④ 問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、そして研究計画を立案・遂行し、その成果を発信及び活用する意欲がある人
- ⑤ 幅広い学際的視点を修得するために他分野の領域の学生とも積極的にディスカッションし、相互理解を深めながら学ぶ能力を有する人

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

① 一般選抜

英語、専門科目、小論文、口述試験及び研究計画書の内容から、欧米の学術論文の読解能力、看護師としての基礎的知識と実践力、研究テーマの適切性及び研究計画の実行可能性（博士後期課程の3年間で博士論文が作成できるか、また、研究を実施するための専門基礎知識を有しているか）を総合的に評価する。

② 社会人特別選抜

英語、小論文、口述試験及び研究計画書の内容から、欧米の学術論文の読解能力、看護師としての基礎的知識と実践力、研究テーマの適切性及び研究計画の実行可能性（研究を実施するための専門基礎知識を有しているか）を総合的に評価する。